

総務省地域情報化アドバイザー
優良事業事例

京都府福知山市

派遣対応年度：令和3年度
地域情報化アドバイザー名：藤井 靖史 氏
派遣回数：2回（オンライン支援）
支援形態：支援・助言
支援分野：その他（地域通貨）

基礎情報

- 人口：75,948名（令和5年1月末現在）
- 面積：552.54平方キロメートル
- 主な産業：製造業、小売業



優良事業概要

- **事業名** 地域通貨実証実験事業

- **事業の概要**

福知山公立大学の技術を活かした独自の地域循環型キャッシュレスサービスの社会実装を図り、現在普及しているキャッシュレスサービスの使用にかかる手数料を地域内循環させることをめざす事業です。

令和4年度は地域の団体と福知山公立大学が共同で、当事業に取り組まれています。

- **アドバイザーへの依頼内容**

持続可能な地域通貨を構築するための方策を依頼しました。

地域情報化アドバイザーから受けた支援内容

- **支援を受けた内容**

「スマートシティの推進」、「地域通貨が地域にもたらす効果」、「オープンデータ利活用」を中心にアドバイスをいただきました。

「スマートシティの推進」においては、デジタルの活用を目的とするのではなく、地域のあり方を考えたうえで、スマートシティ構想を創るというコンセプトについてご示唆いただきました。

また、地域通貨やオープンデータ利活用では会津大学や会津若松市の事例を共有いただき、本市が参考にすべき点が多々ありました。

コミュニティも味噌汁と同じで、エネルギーがあると対流が起こり、自然に構造が生まれるという「お味噌汁理論」では、プロジェクトベースで流動的な組織をつくることの重要性を学びました。



地域通貨「けーら」が電子マネーに対応

地域通貨実証実験事業は、既存の地域通貨を電子にも対応させる、という切り口でスタートしています。

福知山公立大学山本ゼミが以下の取組を実施されました。

2022年5月15日（日）、福知山公立大学の山本吉伸教授のゼミと福知山市大江町毛原の住民団体「毛原の棚田ワンダービレッジプロジェクト」（代表：水口一也氏）が共同で開発した、デジタル地域通貨「けーら」の運用が開始されました。

「けーら」は、2017年に毛原の棚田ワンダービレッジプロジェクト団体が活力あるコミュニティを創造することや地域活性化を図ることを目的に発行した紙幣式の地域通貨です。今回、紙幣式「けーら」を運用する上での事務作業の負担を軽減するため、デジタル版「けーら」の運用を開始しました。

毛原地域で実施されるイベント・ボランティアへの参加時もしくは毛原政所での現金交換にてもらえる「けーら」は、従来どおりの紙幣式もしくはスマートフォンにチャージして利用することが可能です。

1けーら = 1円として毛原地域内の農産物直売所や食品加工所、営業販売を行っている事業所などで利用できます。

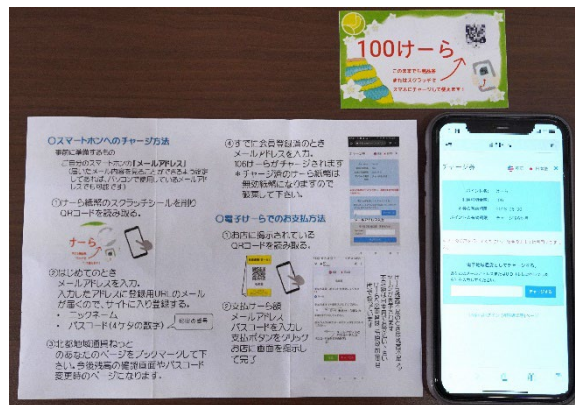
参考：福知山公立大学ホームページ（2023年2月1日現在）
<https://www.fukuchiyama.ac.jp/news/20604/>



地域通貨「けーら」の電子マネーによる買い物の様子（2022年5月15日）



お店に掲示されているQRコードを読み取り、支払額を入力している様子（同日）



地域通貨「けーら」の紙幣とスマートフォンへのチャージ方法

地域情報化アドバイザー制度を知るきっかけ

ホームページで知りました。

地域情報化アドバイザー制度に関する評価・感想

● 評価・感想

各分野で活躍されている講師の先生方に直接、無料でアドバイスをいただける大変ありがたい機会です。アドバイスも的確なうえ、先進的な事例を知ることができるので、とても有効に利用させていただきました。